



城南坂

校長だより No.4
R7. 4. 22 (火)
校長：佐々木雄治

学校教育目標 「志と誇りを持ち 主体的に行動する生徒の育成」

「目配り」「気配り」「心配り」

先週末からの暖かさに、城南坂の桜が一気に開花し始め、ようやく春本番を迎えられた感じがする週明けとなりました。本校では、先週の生徒会任命式終了後、早速、生徒会活動が動き始めました。生徒会執行部は、城南生徒憲章の1つ目である「あいさつから始まるコミュニケーションを大切にしよう」を新学期の重点として掲げ生活委員会とともに朝のあいさつ運動をスタートさせました。生徒昇降口で、全校生徒に明るく爽やかなあいさつを行う姿、そしてその声掛けに元気よくあいさつを返す姿を見て、私が任命式で話したリーダーの声に響き合おうとする態度が表れているのを感じ、たいへんうれしく思いました。あいさつは、人と人とのコミュニケーションを円滑にし、絆を深めるきっかけになります。あいさつの後に、さらに一言、声を掛けたり質問したりしながら周囲の友達や先生方とのかかわりを深め、自分にとって居心地の良い環境を自らつくっていく姿勢を大切にしてください。



新学期の重点に関連して、今日は、人とのかかわりコミュニケーションを大切にする上で重要な「三配り（さんくぱり）」について紹介します。「目配り」「気配り」「心配り」の3つをあわせて「三配り」といいますが、日常からこの三配りができる人は、周囲から信頼され、集団の中で円滑な人間関係を築くことができます。ぜひ意識して身に付けたいスキルですので、解説していきます。

1つ目の「目配り」は、周囲の状況を注意深く見て些細な行動や変化にいち早く気づい

て行動につなげ、困っている人に優しく手を差し伸べたり、サポートしたりするスキルです。レストランなどで注文する際こちらから呼ぶ前にお店の方が気づいてくれたり、体調が悪くしんどいときに「どうかしたの？」と直ぐに状況を察知して声を掛けてくれたりするととてもありがたいですね。

2つ目の「気配り」は、相手の気持ちや状況を先に感じ取り、その状況に応じた行動をしていくことです。お店で買い物をしたときに、店員さんが商品の入った袋を持ちやすいように持ち手の部分をお客さんに差し出すといったように、少し先の未来のことを察知して、こうしてもらおうとありがたいということをしる気なくしてあげるスキルです。

3つ目の「心配り」は、相手を思い、相手の心に寄り添って、快適に過ごせるように行動するスキルです。気配りとよく似ていますが、心配りは何をしてあげたら喜ぶのかなというように、気配りよりもさらに相手のことを思って行動することです。まとめると、

目配り：敏感に感じ取る力

気配り：求められることを理解する力

心配り：人のために行動できるやさしさとなります。

相手のことを思って行動すると、それが相手には必ず伝わります。逆に相手を軽んじたり、馬鹿にしたり、からかおうとしたりする気持ちも相手に必ず伝わります。どちらが自分自身にとってプラスになるのかは考えるまでもないと思います。自ら周囲に対して愛を与えられる人こそが、周囲から愛される人になることができます。今日からぜひ三配りを意識したコミュニケーションを図るようがんばってみてください。その心がけが、やがて自分を助けてくれるはずですよ。

ちなみに右下の写真は、入学式後に3年学年棟のホワイトボードで見つけた、先生方からの「心配り」あふれるメッセージです。こうした「心配り」があちらこちらで見られる城南中学校にしていきたいですね。

